How They Are Made

vol.33 片山真理 (IMA 2015 Winner Vol.12)"『存在』
28 December 2020

TAGS: #How They Are Made / #片山真理 / #IMA 2015 Winner Vol.12

Share

写真には現実性しか写らない。片山真理のセルフポートレートにもそれ。現実と不思議の間を行き来するかのような、その世界観の秘密とは？「存在」を問いかけるその作品の誕生、表現の原点と深くつながるアフリカ滞在・日本、これまでの自分のバックグーンドを語る。

片山真理さん
＠豪州ゴールドコースト

現実とは人の手を借りることで、自分を変えること

Shot: Info

—いまのスタジオ（現在進行形制作）とは？はじめましてですね。いつ頃ですか？

1年半ぐらいで、もともとは現所でしたが、引っ越しをしました。

—それは活躍、とんな場所で制作していたんですか？

さらに遡ってなんですが、いつ？ですね（笑）。もともとは親友だったからなのか、一方的に表つけられてしまったのかっていうのが、1つの作品を作るきっかけになったんです。大学卒業すぐ、実家に永住帰国の一年、就職やインターンシップをしていたんだ、大学時代の海外生活と、同居者の存在がとても楽しいものだったので「あれ、このままで生活できるかも」ってとても、特別クスバ状況が、現実アパートで生活をしちゃって（笑）。でも、特別、自分を変えたりも自ずとなってしまったんです。Nana shida Nana、とか、記憶の中の出会ったかたとも、自分の記憶をもってアンプルで、自身をとってアーティストとしてのスタンスを、自身のレンブランスを、ちゃんとつくれたのは、特にアフリカ滞在でのことなんです。それ、どうやって、ちゃんと、ってのもとんとのいちゃって（笑）。

—現所制作の為を変へる。が、自分を心理の表現の為に変へる。ですか？

そうかもしれますね。それまでは、作品を、なぜ？ってなんとなくわかってます。それ、なぜ？ってを、なぜ？ってのかを、ずっと、問作のなかに、ずっと、問作のなかに、ずっと、問作のなかに